

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	山梨県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	勝沼町立勝沼中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	21
生徒数	81	99	94	3	277	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力を育む教育活動に関する研究

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・全教科特に美術科（山梨県基礎学力向上やまなしプランの指定） 学習に対する関心意欲を育てるため。 3年生・数学少人数指導 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。 1・3年生・英語少人数指導 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。</p>

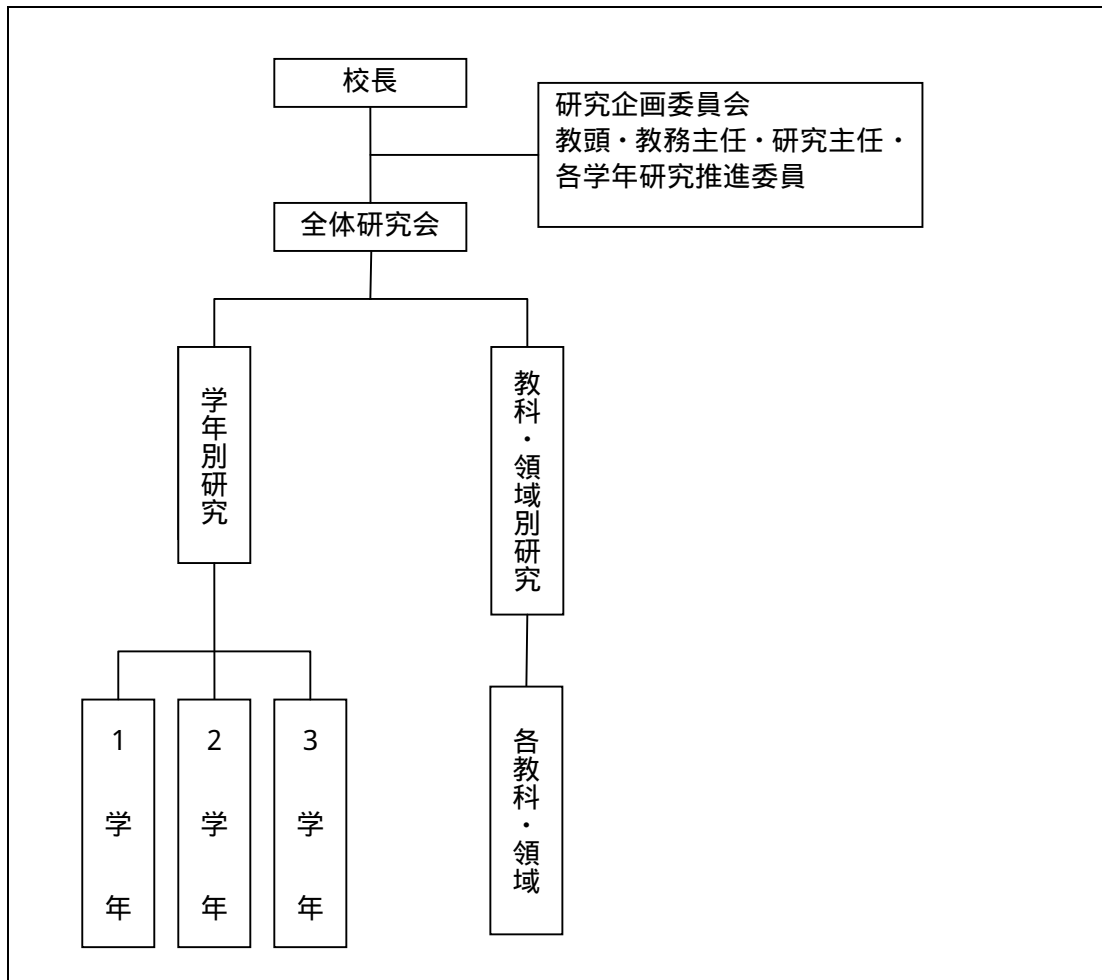
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	平成15年度の指定により、なし
--------	-----------------

平成15年度	<p>基礎学力を育む教育活動に関する研究 研究の内容</p> <p>(1) 基礎学力の共通理解を図る。 (2) 各教科で反復練習の学習の機会を設ける。 (3) 興味関心を高める工夫をする。 (4) 習熟度別学習に取り組む。 (5) 絶対評価の評価方法の改善をする。 (6) 教育課程の改善に取り組む。</p>
--------	--

平成16年度	<p>基礎学力を育む教育活動に関する研究 研究の内容</p> <p>平成15年度に研究した内容（1）～（5）についてさらに実践を深め、 研究の検証を行う。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



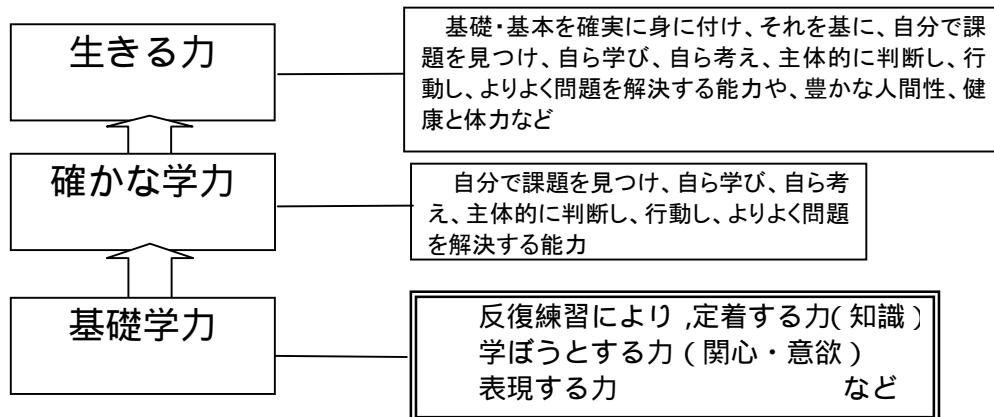
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

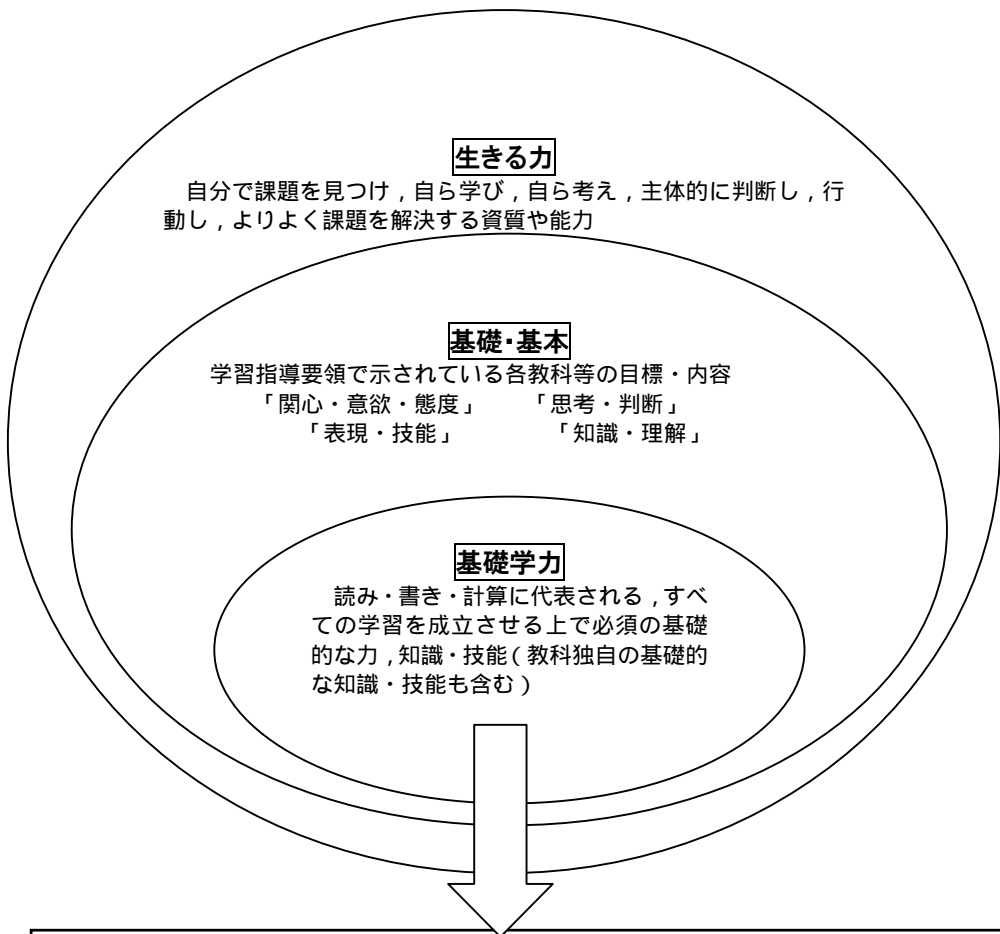
研究の具体的内容と成果について

(1) 基礎学力の共通理解を図る。

確かな学力の基盤となる「基礎学力」についての概念規定を明確にして、教員間の共通理解を次のように図った。



これらをもとに、本校では「基礎学力」を基礎的な力と知識・技能の2つに分類し(下図)、特に基礎的な力に焦点をあてて教育活動にあたることとした。



基礎的な力・・・各教科においてドリル学習(反復練習)によって、身に付く力。
知識・技能・・・小学校の学習内容や前の学年・単元等、現在の学習の基礎となる力

基礎的な力
各教科での学習を成立させる上で必須の力を設定し、その定着を図る。

小学校との連携
教協のブロック研究等において、町内4小学校との連携を図る。

学習環境の整備
意欲的な学習ができるような学習環境(学級の雰囲気・掲示物・家庭学習の習慣化等)を整える。

(2) 各教科で反復練習の学習の機会を設ける。

「基礎学力」を身に付けさせるために各教科の学習内容について、生徒に反復練習の機会を設定して、取り組んだ。

反復練習・・・朝学習の時間の利用の研究

学習相談・・・月曜日の放課後の利用の研究

時間をきめて、基本として学年の担当教師が、希望者に対し実施した。今年度は、国語・数学・英語を中心に、原則として希望する生徒に対して実施。その他の教科についても、質問できる時間として保障。生徒も積極的で、学年の3分の1ほどが自主的に参加している。このことから、基礎学力を身に付けることの大切さを理解していると考え。

(3) 興味関心を高める工夫をする。

生涯学習の観点から、生徒の興味関心を高める工夫をした授業を通して取り組む。

各教科・領域で、昨年度の研究成果をもとに、生徒が興味を持っていることや身近な題材を教材として利用するなど、生徒が学習に意欲がもてる工夫を継続して取り組む。

(4) 習熟度別学習に取り組む。

選択教科の中で基礎コース・発展コースの習熟度クラスを編成し、生徒が自分自身で選択して学習する方法を研究・実践した。

少人数指導の実施

・数学3年、英語1・3年での実施。1クラスを、基本コース、発展コースの2コースに分け、少人数で学習する。

習熟度学習の研究

・上記の少人数指導を習熟度別に発展させるための研究と保護者の理解を得る活動の実施。

本年度は、生徒・保護者の希望により2コースに分けて行った。

(5) 絶対評価の評価方法の改善をする。

生徒の学習意欲を高めるための評価方法を研究・実践する。

各教科の評価規準の見直し

評価の出し方についての学校としての基本線の確認

評価と指導の一体化について

評価の通知方法（通信表など）の見直し

などを行った。

(6) 教育課程の改善に取り組む。

教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間について、基礎学力の向上の観点から見直し、教育課程の改善を図る。

(1)～(5)を達成するための教育課程の見直しの検討

2. 今後の課題

勝沼中学校として、基礎学力をどうとらえて（定義）、生徒にどのようにすれば効率よく着実に定着させることができるか。および、それらについて職員間で共通理解を図ること。

本年度、3年生の数学と英語で、少人数指導を開始し、それをさらに習熟度別学習にひろげていくために、教育課程・教材等の工夫をどのようにしたらよいか。また、保護者・地域にどのように理解を得ていくのか。

昨年度から相対評価から絶対評価へと評価の方法が変わったが、その評価の方法の見直しと、評価して終わりではなく、その評価をどのように生かして生徒の学習指導にあたればさらに効果をあげることができるか。（評価と指導の一体化）

上記の課題に取り組むために、教育課程の見直しの検討を行う。完全学校週5日制導入時に、同様の見直しを行い、行事の精選等により授業時間数を確保したが、さらに教育課程を工夫することでより多くの授業時間が確保でき、学力向上に結びつけることができるのではないかと。また、総合的な学習の時間などで、教科で身に付けた基礎学力をさらに広げ、また、逆に総合的な学習の時間での課題をどのようにすれば教科の学習に生かせることができるかなど、効果的にリンクさせる方法を考えることができないか。

研究指定校として2年間の指定であるため、上記の課題を短期間で研究していかなければならないこと。

学力把握のための学校としての取組

NRT, AAI検査の実施 平成15年11月27日

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

フロンティアティーチャー研修会

第1回 平成15年6月26日

第2回 平成15年10月23日

目的 研修会を通じ、研究リーダーとしての意識を高めるとともに、実践研究の成果を他の学校に普及し、その方策等を検討する。

峡東地区学力向上推進協議会

第1回 平成15年7月8日

第2回 平成16年2月27日

目的 地区のフロンティアスクールの実践研究の成果を公表するなどして、地域内全域の小中学校の学力の向上を図る。

勝沼中学校ブロック研究会

日時 平成16年1月21日

目的 小中が交流することにより、連携を図って教育活動を実践する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無